

経済・政治研究所長 殿

.....エキシビションとツーリズム研究班

主 幹岡田 朋之.....

研究班活動報告書

2021年度.....エキシビションとツーリズム.....研究班の研究活動結果を、次のとおり報告いたします。

研究テーマ	グローバルゼーションのもとでの地域の持続的発展に貢献しうるイベントとツーリズムに関する調査研究
研究成果の概要及び活動報告	<p>学会・研究会参加、発表および講演</p> <p>「ケーブルテレビが紡ぐ地域のドキュメンタリー」第2回「ローカルの語り研究会～地域を語り拓くメディアコミュニケーションを考える～」、於：オンライン開催、2022年1月29日（岡田朋之研究員）</p> <p>「ミュージアムにおける脱植民地化のデザイン」カルチュラル・タイフーン2021、カルチュラル・スタディーズ学会、於：金沢21世紀美術館、2021年6月27日（村田麻里子研究員）</p> <p>‘Museums, University, and Academia in Japan’ Antoni Muntadas: About Academia, an Online Interpretation 2011-2017 (2021) - Second Round Table: Intercontinental Academia, Institute of Advanced Studies at the University of São Paulo, Online, 2021.5.10（村田麻里子研究員）</p> <p>「テレビを見ながら旅すること」関西大学経済・政治研究所第247回産業セミナー、於：関西大学梅田キャンパス、2021年9月15日（松山秀明研究員）</p> <p>「戦争とラジオ 南方占領地での放送」ピースアカデミー、於：オンライン開催、2021年9月21日（松山秀明研究員）</p> <p>「地域がつくられるとき：ネガティブケイパビリティとディスポニブル」、地域デザイン学会全国合同地域部会第2回研究会基調講演、於：オンライン開催、2022年1月22日（古賀広志研究員）</p> <p>「研究推進のエンジンとしてのフォーラムと研究者のコミュニティとしてのフォーラム」、地域デザイン学会 第2回合同フォーラム パネルディスカッション（パネラー）および報告、於：オンライン開催、2021年11月20日（古賀広志研究員）</p> <p>「ポストコロナ時代の働き方のデザイン：もうひとつのビジネスモデル論序説」地域デザイン学会 関東・東海地域部会第18回研究会特別報告、於：オンライン開催、2021年11月6日（古賀広志研究員）</p> <p>「コンステレーションデザインの課題：世界遺産を例に」地域デザイン学会 第2回 ZTCA デザインモデル研究フォーラム特別講演、於：オンライン開催、2021年10月16日（古賀広志研究員）</p> <p>「AI 人工物が内包する プライバシー問題について：フレームの観点から」日本情報経営学会第82回全国大会（柳原佐智子との共同報告）、於：オンライン開催、2021年10月2日（古賀広志研究員）</p> <p>「地域デザインにおけるシグニファイアの意義：問題解決学としての地域デザイン論序説」、地域デザイン学会 第10回全国大会、於：博展（ハイブリッド開催）、2021年9月11日（古賀広志研究員）</p> <p>「一酸化二水素をめぐる冒険」、地域デザイン学会 第1回デジタルトランスフォーメーション研究フォーラム、於：オンライン開催、2021年9月4日（古賀広志研究員）</p> <p>「科学としてのデザイン行為」地域デザイン学会 第1回デザイン科学研究推進フォーラム、於：オンライン開催、2021年8月7日（古賀広志研究員）</p> <p>地域デザイン学会 関西・北陸地域部会第14回研究会総括討論（パネルディスカッション）モデレーター、於：近畿大学（ハイブリッド開催）、2021年7月17日（古賀広志研究員）</p> <p>「他分野を捉えた ZTCA デザインモデルの評価と可能性」地域デザイン学会 第1回 ZTCA デザインモデル研究フォーラム特別講演、於：オンライン開催、2021年6月19日（古賀広志研究員）</p> <p>「地域の DX：現状と課題」地域デザイン学会 関東・東海地域部会第17回研究会、於：オンライン開催、2021年5月15日（古賀広志研究員）</p> <p>「チェルシー・フラワー・ショーとその時代」関西大学経済・政治研究所第247回産業セミナー、於：関西大学梅田キャンパス、2021年9月15日（小川明子研究員）</p>

著書	『新版 メディア論』（共著）放送大学教育振興会、2022年3月刊（劉雪雁研究員）。
分担執筆・論文等	<p>“The Potential of the Participatory Design of Mobile Media in Post-Mobile Society” Tomita, H. eds., <i>The Second Offline: Doubling of Time and Place</i>, pp. 89-103, 2021.9.（岡田朋之研究員）</p> <p>「参加と関係性構築に向けて——エキシビションとツーリズムへのアプローチ」関西大学 経済・政治研究所 研究双書『エキシビションとツーリズムの転回』第I章, 1-20 ページ, 2022年3月刊。（岡田朋之研究員）</p> <p>「ポスト・パンデミックの観光におけるモバイル・メディアの可能性——参加型デザインからの考察」富田英典編著『セカンド・オフラインの世界：多重化する時間と場所』第7章, 恒星舎厚生閣, 2022年3月刊。（岡田朋之研究員）</p> <p>「ミュージアムの展示における脱植民地化——『コロニアル・テクノロジー』を脱構築する手法の検討」『関西大学社会学部紀要』53(1), 141-167 ページ, 2021年9月刊。（村田麻里子研究員）</p> <p>「『記憶の場』が再構成する『満洲』——博物館と都市の観光による記憶の継承」関西大学 経済・政治研究所 研究双書『エキシビションとツーリズムの転回』第II章, 97-148 ページ, 2022年3月刊。（村田麻里子研究員）</p> <p>「網紅都市（映えるまち）——ショートビデオと都市イメージ」富田英典編『セカンドオフラインの世界：多重化する時間と場所』第14章, 恒星社厚生閣, 2022年3月刊。（劉雪雁研究員）</p> <p>「国際博覧会と『中国』表象——中国館のデザインと展示を中心に」関西大学経済・政治研究所双書『エキシビションとツーリズムの転回』第VI章, 197-244 ページ, 2022年3月。（劉雪雁研究員）</p> <p>「アンテナ塔のある風景——1920年代のラジオ都市」梅田拓也・近藤和都・新倉貴仁編『技術と文化のメディア論』ナカニシヤ出版, 169-186 ページ, 2021年11月刊。（松山秀明研究員）</p> <p>「『南方放送史』再考 激戦地における放送工作とその潰散——フィリピンとビルマを例に」『放送研究と調査』2021年5月号, pp.26-43.（松山秀明研究員）</p> <p>「放送研究の歩みと課題」『マス・コミュニケーション研究』100号, 2022年2月刊。（松山秀明研究員）</p> <p>「デジタル・トランスフォーメーションにたいする社会物質的アプローチ：情報システム研究の展望と課題」、日本情報経営学会誌、第41巻 第2号、68-85 ページ、2021年09月刊。（古賀広志研究員）</p> <p>「ZTCA モデルとデザイン・サイエンスの類似性：地域デザイン学の研究課題についての試論」、地域デザイン学会誌、第18号、131-150 ページ、2021年9月30日刊。（古賀広志研究員）</p> <p>「AI 人工物に対する意識と個人の心理的態度の関係：日本とスウェーデンにおける個人の意識調査」（Persson Anders, Laaksoharju Mikael との共著）『情報研究：関西大学総合情報学部紀要』、第54巻、33-63 ページ、2022年01月刊。（古賀広志研究員）</p> <p>「雇用型テレワークの日常的実践に関する実態調査」（佐藤彰男との共著）『情報研究：関西大学総合情報学部紀要』、第54号、65-80 ページ、2022年01月刊。（古賀広志研究員）</p> <p>「ダークツーリズムの現代的意義——観光行為の社会物質的転回」関西大学 経済・政治研究所 研究双書『エキシビションとツーリズムの転回』第VII章, 245-292 ページ, 2022年3月刊。（古賀広志研究員）</p> <p>「ダークツーリズムからみた軍艦島の意義」関西大学 経済・政治研究所 研究双書『エキシビションとツーリズムの転回』第VIII章, 293-336 ページ, 2022年3月刊。（古賀広志研究員）</p> <p>「チェルシー・フラワーショーの誕生：19世紀英国における庭とエキシビション」関西大学 経済・政治研究所 研究双書『エキシビションとツーリズムの転回』第III章, 59-96 ページ, 2022年3月刊。（小川明子委嘱研究員）</p> <p>「植民地朝鮮における博物館・博覧会・観光」関西大学 経済・政治研究所 研究双書『エキシビションとツーリズムの転回』第V章, 149-196 ページ, 2022年3月刊。（中江桂子委嘱研究員）</p>
新聞・メディア掲載その他	<p>「名古屋の水晶宮」東海ラジオ『源石和輝 抽斗！』（2022年9月17日放送）</p> <p>名古屋における東山植物園温室と英国のロンドン万国博覧会の水晶宮について、当時の植物をめぐるエキシビションについて説明をした。（小川明子委嘱研究員）</p>

調査等	<p>(出張期間、目的、出張先、補助金名【(1)関西大学の補助金、(2) 科研、(3)その他の補助金】等記載ください)</p> <p>ドバイ国際博覧会におけるフィールド調査、アラブ首長国連邦・ドバイ国際博覧会会場、2021年12月17日～12月27日、【(1)関西大学経済・政治研究所】(岡田朋之研究員)</p> <p>ドバイ国際博覧会におけるフィールド調査、アラブ首長国連邦・ドバイ国際博覧会会場、2022年2月22日～3月4日、【(1)個人研究費】(岡田朋之研究員)</p> <p>アイヌ関連文化施設の現状に関する視察、伊達市・だて歴史文化ミュージアム、ウポポイ(民族共生象徴空間)及び国立アイヌ民族博物館ほか、2021年7月2日～7月4日、【(2)科研】(村田麻里子研究員)</p> <p>地方の芸術祭の現状に関する視察、奥能登国際芸術祭珠洲2020+、2021年11月2日～3日、【(2)科研】(村田麻里子研究員)</p> <p>東北地方における現代アートセンターの視察、国際芸術センター青森ACAC、八戸市美術館、2022年2月10日～11日、【(2)科研】(村田麻里子研究員)</p> <p>水俣・天草における「負の遺産」とツーリズムの現状に関する視察、水俣病歴史考証館、天草四郎ミュージアム、崎津教会ほか、2022年3月13日～3月16日、【(1)関西大学経済・政治研究所】(岡田朋之研究員、村田麻里子研究員、松山秀明研究員、古賀広志研究員、小川明子委嘱研究員、中江桂子委嘱研究員)</p> <p>戦後の松本文化史と松本民藝館についての調査、松本民藝館・重要文化財馬場家住宅・秋櫻舎・松本市立図書館、2022年2月25日～2月27日、【(3) 明治大学人文科学研究所】(中江桂子委嘱研究員)</p>
活動内容の総括	<p>昨年度までの2年間の成果として上梓する研究双書の執筆を軸に据えつつ、これまでの成果の継承と、さらなる発展に向けた調査等を実施していった。前年度から続くコロナ禍の下での制約が大きく、研究班全体としてドバイ万博視察に赴くことは叶わなかったが、限られた機会の中でも2度にわたって主幹の岡田が会場のフィールド調査に出向き、詳細な資料の収集をおこなうことができた。また、研究員のほとんどが参加した熊本県水俣・天草地域の「負の遺産」をとらえなおす視察を実施したほか、各研究員もそれぞれの調査をおこなうなかで、各自の領域における洞察を深めることができた。</p> <p>こうした調査研究を継続する一方、研究双書においては、近年における博覧会、ミュージアム、観光のあり方の変容をとらえて、その可能性と課題を明らかにする論考を、各研究員の寄稿による論文集として上梓できたほか、前年度以前の2年の間に実施した研究会および講演会等の記録も調査と資料にとりまとめることができた。研究所でのこうした活動の他にも、学会報告や学会誌等への寄稿も数多く、研究班としては多大な成果を修められたと考えている。</p>
次年度に向けての計画・展望	<p>最終年度となる次年度は、これまでの研究成果として得られた、博覧会等のイベント、ミュージアム等の施設、そして観光において生じている変容に関する知見を、地域社会の再生と持続的発展にどのようにつないでいくのかという考察をより深めていく。このことから、実践的な政策提言に結びつけていくことを目指したい。</p> <p>具体的には年度の早期のうちに、研究班の最終報告である次の双書の編集方針を、数回の公開もしくは非公開の研究会を通じて確立し、その方針の下に研究員各自が領域分担をおこなって執筆作業を進めていく。</p> <p>その中では、前年度のドバイ万博のフィールド調査による資料やそこからの知見を研究班内で共有し、また他の研究員の調査研究の成果についてもそれぞれ交換しながら、各自の論考に役立てていくことを目指す。</p> <p>また、執筆を進めていく一方で追加の調査も継続的に実施していく。</p> <p>これらの実践的な活動は、開幕まで3年を切った2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の望ましい展開についての提言につながるものと位置づけ、関係各方面との連携を探っていくことも考慮していきたい。</p> <p>こうした諸活動のもと、研究班としての活動終了後に上梓される研究双書がより充実したものとなるよう研究計画を進める予定である。</p>